



時空を超えて

教育長 津野庄一郎

出会いは50年以上も前、小学校時代にさかのぼります。当時関川村では羽越水害後の道路整備工事が各所で行われていました。中でも小見や湯沢集落からは縄文土器や石器類が多く出土しました。真っ黒い土の中から顔を出す縄目模様の土器、黒曜石の^{こくようせき やじり}鏃、緑色した蛇紋岩の^{じやもんがん}石斧…大昔、この地に人間が暮らしていたという驚きと不思議が、歴史へのロマンをかりたてました。社会科の授業だったでしょうか。若山にあった広い桑畑と養蚕工場を見学した後に、女川中学校の校庭の隅にあった竪穴式住居（復元）を見た覚えがあります。

現在、教育課（担当：生涯学習班）では、「大島沢田地区遺跡試掘確認調査」を県や業者の協力を得て実施しています。ポイントを定めて重機もしくは人力で深さ1～2m程度掘削し、遺物・遺構の有無の精査を進めています。掘削しては埋め戻すという根気のいる作業で、お金もかかりますが^{ほじょう}圃場整備前にやらなければならない事業です。

関川村は古くから豊かな地域だったとことが、縄文遺跡の分布からわかります。県北では奥三面^{おくみおもて}遺跡群が知られていますが、本村もそれに劣らないと感じています。沢に「堂の前遺跡」があります。その発掘に尽力した渡辺忠利さん（故人）を忘れません。現在、旧女川小学校に保管されている遺物群も村の歴史を語る貴重な史料です。「せきかわ歴史とみちの館」にも縄文期の一端が紹介されていますので、ぜひ訪ねてみてください。



<【写真】上：10月16日試掘調査に立ち会う渡辺班長、下：遺物を前に説明する渡辺さん右から2人目>